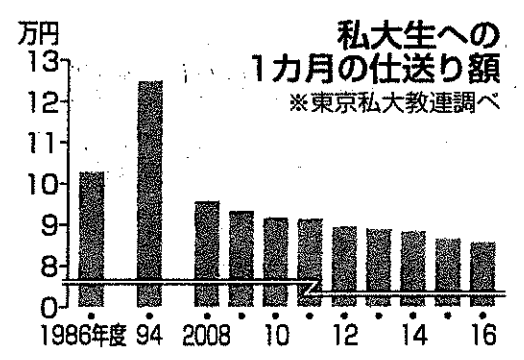


4/6  
早稲

# 私大生仕送り最低更新

首都圏を中心とする私立大に二〇一六年度に入学した下宿生への仕送り月額（六月以降の平均）は、十六年連続減少の八万五千七百円で、一九八六年度の集計開始以降、過去最低を更新したことが五日、東京地区私立大学教職員組合連合（東京私大教連）の調査で分かった。仕送り平均額から家賃平均額を引いた生活費は一日当たり七百九十



円で、初めて八百円を割った。調査は一六年五月七月に実施。茨城、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川の六都県にある大学・短大十六校の新生の保護者四千八百七十一人が回答した。仕送り額は前年度から千円減で、ピークだった九四年度の十二万四千九百円から約三割減った。家賃平均額は八百円増の六万二千円だった。自宅生を含めた保護者の平均年収は九百九万一千円で前年度から九万六千円増えたが、下宿

## 生活費 1日790円

生の保護者に限ると一万七千円減の八百九十九万二千円。下宿生の家庭で受験料や住居費、四月十二月の仕送り額など入学の年にかかる費用は平均二百九十二万七千円と年収の32・6%を占め、負担の重さが浮き彫りになった。東京私大教連の担当者は「学費が年々上がっているのに、保護者は仕送りを増やせない状況だ。学生はアルバイトなしでは生活できないのではないかと」分析した。